

技術評価実施・事業評価実施規程の改訂について

規程名		技術評価実施規程	事業評価実施規程
対象事業		主に研究開発を伴う事業	研究開発を伴わない事業 例) 人材育成系
主な改正内容	共通原則への明示性の追記	既定	新定(被評価者・評価者間における討議を奨励する「明示性」を追記)
	前倒し事後評価に関する事項の追記	新定(前倒し事後評価の対象を拡充する旨を追記) ※機構内の状況を鑑み、より有意義な評価を実施するため、対象を拡充する。	
	テーマの評価に関する事項の追記	既定	新定(推進部署が実施しているテーマ評価について、実施根拠を追記)

事前評価の評価項目・評価基準の変更について

2021 年度より、ナショナルプロジェクトに対する事前評価の標準的評価項目・評価基準を以下の通りとする。(詳細は別紙参照)

【追加】

評価項目 2. 研究開発マネジメントについて

評価基準 2-1

- ・前身プロジェクトや先導研究等の過去の取組の成果とその評価を概説した上で、目標設定を行っているか。【該当しない場合、この条項を除外】

事前評価における標準的評価項目・評価基準

○ナショナルプロジェクト

【評価項目 1】	事業の位置付け・必要性について
■評価基準 1-1	事業の目的の妥当性 (注) 具体的には、以下の点に留意すること。 <ul style="list-style-type: none"> ● 内外の技術動向、国際競争力の状況、エネルギー需給動向、市場動向、政策動向、国際貢献可能性、<u>これまでの事業成果等の観点から、事業の目的は妥当か。</u> ● 上位の施策・制度の目標達成のために寄与するものであるか。
■評価基準 1-2	NEDO の事業としての妥当性 (注) 具体的には、以下の点に留意すること。 <ul style="list-style-type: none"> ● 民間活動のみでは改善できないものであること又は公共性が高いことにより、NEDO の関与が必要とされる事業か。
■評価基準 1-3	アウトカムの妥当性 (注) 具体的には、以下の点に留意すること。 <ul style="list-style-type: none"> ● 事業の目的を踏まえたアウトカムが明確であり妥当であるか。 ● アウトカム指標及びアウトカム目標値が明確かつ妥当であるか。
■評価基準 1-4	費用対効果の妥当性 (注) 具体的には、以下の点に留意すること。 <ul style="list-style-type: none"> ● 当該事業を実施することによりもたらされると期待される効果は、投じる研究開発費との比較において十分であるか。

【評価項目 2】	研究開発マネジメントについて
■評価基準 2-1	研究開発目標(アウトプット目標)の妥当性 (注) 具体的には、以下の点に留意すること。 <ul style="list-style-type: none"> ● 内外の技術動向、市場動向等を踏まえて、戦略的な目標を設定しているか。 ● 達成度を判定できる明確な目標を設定しているか。 ● <u>前身プロジェクトや先導研究等の過去の取組の成果とその評価を概説した上で、目標設定を行っているか。</u>
■評価基準 2-2	研究開発計画の妥当性 (注) 具体的には、以下の点に留意すること。 <ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成のために妥当なスケジュール及び研究開発費となっているか。 ● 目標達成に必要な要素技術の開発は網羅されているか。 ● 計画における要素技術間の関係、順序は適切か。

■評価基準 2-3	研究開発の実施体制の妥当性
	(注) 具体的には、以下の点に留意すること。 <ul style="list-style-type: none"> ● 当該事業の実施体制、役割がそれぞれ明確かつ妥当か。 ● 指揮命令系統及び責任体制が明確であるか。
■評価基準 2-4	知的財産等に関する戦略の妥当性
	<ul style="list-style-type: none"> ● 知的財産に関する戦略は、明確かつ妥当か。 ● 知的財産や研究開発データに関する取扱についてのルールを検討しているか。 ● 国際標準化に関する事項を計画している場合、その戦略及び計画を検討しているか。【該当しない場合、この条項を除外】

【評価項目 3】	研究開発成果(アウトプット)からアウトカム達成に至るまでの道筋(ストーリー)について
■評価基準 3	研究開発成果(アウトプット)からアウトカム達成に至るまでの道筋(ストーリー)の妥当性
	(注) 道筋(ストーリー)は以下の点を踏まえた上で作成されていること。 <ul style="list-style-type: none"> ● 個々の研究開発項目の研究開発成果(アウトプット)から、プロジェクト全体のアウトカム達成に至るまでの「道筋(ストーリー)」が、誰が何をどのように実施するのかを明示しつつ、時間軸に沿って説明されているか。 ● 研究開発成果(アウトプット)の受け手が行う活動と、その効果・効用として現れる価値(アウトカム)の繋がりが明確か。 ● 最終アウトカム達成に至るまでの途上で期待される中間的なアウトカムの指標が示されているか。 ● アウトカム達成に影響を与える外部要因や受益者が示されているか。 ● 必要に応じて、実用化に向けた取組や連携(例えば知財管理、実証、標準化、性能や安全性基準の策定、規制緩和等)が検討されているか。

【評価項目 4】	非連続ナショナルプロジェクト選定について
■評価基準 4	非連続ナショナルプロジェクト選定の妥当性
	<p>選定基準を踏まえ、当該プロジェクトを「非連続ナショナルプロジェクト」に選定するか否かの判断結果が妥当であるか。</p> <p>(注) 次に記す選定基準①、②の両方に該当する場合、当該プロジェクトを「非連続ナショナルプロジェクト」として選定する。</p> <p>① 非連続的な価値の創造に該当するもの 画期的で飛躍的な変化を伴う価値が創造され、提供されることにより、生活、環境、社会、働き方などを変える。</p>

	<p>※主として、ナショナルプロジェクト全体のアウトカム目標を基に判断する。</p> <p>② 技術の不確実性に該当するもの</p> <p>難易度が高い技術的課題や、新領域へのチャレンジなどにより、目標とする特性値や技術は従来の延長線上にはなく、リスクが特に高い。</p> <p>※主として、ナショナルプロジェクトの研究開発項目毎の技術開発内容とアウトプット目標を基に判断する。(研究開発項目の1つ以上が該当すれば、「技術の不確実性」に該当すると判断する。)</p>
--	---

○テーマ公募型事業

【評価項目 1】	位置付け・必要性
■評価基準 1-1	<p>根拠</p> <p>(注) 具体的には、以下の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 政策における「制度」の位置付けは明らかか。 ● 政策、市場動向、技術動向等を踏まえて、「制度」の必要性は明らかか。 ● NEDO が「制度」を実施する必要性は明らかか。
■評価基準 1-2	<p>目的</p> <p>(注) 具体的には、以下の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「制度」の目的は妥当か。 ● 該当する上位施策等の目的に「制度」の目的は整合しているか。
■評価基準 1-3	<p>アウトカム</p> <p>(注) 具体的には、以下の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 制度の目的を踏まえたアウトカムが明確であり妥当であるか。 ● アウトカム指標及び目標値が明確かつ妥当であるか。
■評価基準 1-4	<p>目標</p> <p>(注) 具体的には、以下の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目的を踏まえて、戦略的な研究開発目標(アウトプット目標)を設定しているか。 ● 達成度を判定できる明確な研究開発目標(アウトプット目標)を設定しているか。
■評価基準 1-5	<p>費用対効果</p> <p>(注) 具体的には、以下の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 投入する予定の国費総額に対して、アウトカムが妥当であるか。
【評価項目 2】	マネジメント
■評価基準 2	「制度」の枠組み

	<p>(注) 具体的には、以下の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目的、目標に照らして、「制度」の内容(公募対象分野、公募対象者、開発費、期間等)は妥当か。 ● 目的、目標に照らして、「テーマ」の契約・交付条件(研究期間、「テーマ」1件の上限額、NEDO 負担率等)は妥当か。 ● 他機関の類似制度と比較して、独自性は認められるか。
--	---

【評価項目 3】	研究開発成果(アウトプット)からアウトカム達成に至るまでの道筋(ストーリー)
■評価基準 3	<p>研究開発成果(アウトプット)からアウトカム達成に至るまでの道筋(ストーリー)の妥当性</p> <p>(注) 道筋(ストーリー)は以下の点を踏まえた上で作成されていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個々の研究開発項目の研究開発成果(アウトプット)から、プロジェクト全体のアウトカム達成に至るまでの「道筋(ストーリー)」が、誰が何をどのように実施するのかを明示しつつ、時間軸に沿って説明されているか。 ● 研究開発成果(アウトプット)の受け手が行う活動と、その効果・効用として現れる価値(アウトカム)の繋がりが明確か。 ● 最終アウトカム達成に至るまでの途上で期待される中間的なアウトカムの指標が示されているか。 ● アウトカム達成に影響を与える外部要因や受益者が示されているか。 ● 必要に応じて、実用化に向けた取組や連携(例えば知財管理、実証、標準化、性能や安全性基準の策定、規制緩和等)が検討されているか。